



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第5巻第5号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第5巻第5号). 泌尿器科紀要 1959, 5(5): 382-382

ISSUE DATE:

1959-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111755>

RIGHT:

編集後記

所謂赤線廃止後の性病患者の実体はどうであろうか。薬屋の店頭に於ける抗生剤やサルファ剤の売れ行きとか、メーカーの出荷量などから、潜在的性病患者の増減を推定せんとしても、それを実証するデータは仲々掴みがたいであろう。米軍占領下に規定せられた性病患者届出規則は今日でも生きている。あの当時には無理もなかつたであろうが、現在では実状にそぐわない法律で、あまり守られていないのではないか。医者へ来ずに薬局で薬を買って治療する者も多いに違いない。それだけでも性病患者の実体は不明確になる。最近性病予防対策が厚生省から出されたようであるが、官僚の仕事は兎角現実ばなれがし易いから、実効を挙げ得るかどうか。然し性病患者の実状を知ることには必要であるから、何とか効果のあるように望む。それにはあまりめんどろな規則でなく、患者にも医師にも迷惑のかからぬようなものでなければならぬ。



近頃は海外視察や出張が大流行である。我も我もと出かけてゆく。確かにわるいことではない。数カ月という短期間でもそれだけの価値はある。然しその行き方に多少の問題がないわけではない。例えば希望者が多いと自然に競争になる。何事でも競争といえば人を押しのけて行くことである。その競争の仕方が問題になる。又かなりの経費を要するが、その経費の出し方にも問題のある場合があらう。とに角無理のない事が大切である。内地出張のような考えはどうであろうか。例えば希望する大学の所在地に1週間程滞在して、その大学を見学する。1カ所だけでなく何カ所でもよい。1カ月間出張すればかなりの大学が見学出来る。我々は専門領域の中でも国内に於て実際にどんな事が行われているかを殆ど知らぬ。この考えは案外に簡にして要を得る事ではなかろうか。

これが制度的なものとなればよいと思う。



京大病院の本年2月分の各科別健保請求額(甲表)に於て、泌尿器科は内科、外科に次で第3位であつた。総合病院の専門科目として泌尿器科は経理的にも大きな部分を占めると思う(昭和34年5月)

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記7.フ上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名: 誌名、巻数: 頁数、年次。
例. 中野: 泌尿紀要, 1: 110, 昭30. Lazarus, J. A.: J. Urol., 45: 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。